

# 自衛隊「駆け付け警護」新任務間近

野党が問題視する稲田氏発言



いまは…  
(衆参予算委員会での答弁)

これまでは…

9月30日  
質問に  
民進・辻元清美氏の  
核武装  
日本の  
非核三原則を堅持し、核のない世界に向けて全力を尽くす

戦没者追悼  
(全国戦没者追悼式に) 残念なことに出席できなかった。指摘は指摘として受け止めた  
長期的には日本独自の核保有を国家戦略として検討すべきだ(雑誌「正論」2011年3月号)

10月3日  
質問に  
民進・前原誠司氏の  
尖閣諸島  
問題  
現時点で自衛隊を配備することは検討していない  
誰の目にも分かるように(尖閣諸島に)上陸し、自衛隊を配備するなど実効支配を強めるべきだ(12年7月25日の衆院外務委員会)

5日  
氏に質問に  
民進・蓮舫氏の  
支援  
子育て  
(子育て政策について) 大変重要だ。財源を見つけて充実させていくべきだ  
子ども手当分を防衛費にそっくり回せば、軍事費の国際水準に近づく(雑誌「正論」11年3月号)

11日  
氏に質問に  
社福島瑞穂  
徴兵制  
意に反して苦役で徴兵をするたくいことは憲法に違反する  
教育体験のような形で、若者全員に一度は自衛隊に触れてもらう制度はどうか(同上)

稲田朋美防衛相  
57歳。福井県越前市出身。早稲田大学法学部卒、弁護士。2005年9月の総選挙に福井1区で初当選。4期目。第2次安倍内閣で行政改革担当相、自民党政調会長を歴任

8月に入閣した稲田朋美防衛相を巡り、開会中の国会で、過去の発言と防衛トップとしての言動の食い違いがクローズアップされている。発言の矛盾を問われ、答弁で涙ぐむ場面も。安全保障法制のもと、自衛隊は駆け付け警護など新たな活動領域に踏み込む。それを指揮する防衛トップの資力が問われている。(遠藤拓)

# 稲田防衛相 資質問う声

「指摘は指摘として受け止めた」

9月30日の衆院予算委員会  
で答弁した稲田氏は、苦渋の表情を浮かべた。民進党の辻元清美議員が、8月15日(終戦の日)の全国戦没者追悼式を欠席した理由をたゞし

## 言行不一致で集中攻撃

た。稲田氏は海賊対処で自衛隊の駐留するアフリカ・シブチを訪問中だった。外交への影響を考慮し、国内行事より訪問を優先させたとの観測も出ていた。  
辻元氏は、戦没者への感謝の心を示せない国家では国防は成り立たない。稲田氏の過去の言葉を引き、「防衛大臣で欠席したのはあなただけ」「政府の公式の追悼式を欠席したのは言行不一致だ」とたのみかけた。

答弁時の稲田氏の様子にっ、辻元氏は「目に涙を浮かべ、体が震えていた」と振り返る。「安倍首相は稲田氏を総理候補に『促成栽培』したかったのかもしれない。でも、うろたえる防衛大臣を世界各国はよく思つか。国益を損ねている」と指摘する。

涙を見せた稲田氏について、菅義偉官房長官は記者会見で「高い緊張感をもって職務を果たしている」と擁護した。自民参院議員の一人は防衛相は議論しなされる機会が多く、気の毒だと同情する。一方で「泣くのはまずい。大臣の資質以前の問題」(自民衆議院議員)という声も出ている。

この「涙の答弁」以降、野党は攻勢を強める。日本の核武装と尖閣諸島問題、日米安保体制などを巡る稲田氏の過去の言葉を引き、防衛相としての見解をたじた。そのたびに稲田氏は「非核三原則を堅持する」「尖閣諸島(の)自衛隊配備は検討していない」と政府の公式見解を述べ、過去の発言の修正に追われる印象を与えた。

### 覚悟や見識ない

軍事評論家の前田哲男さんの話。防衛相には、憲法(日米安保体制)に折り合いを付ける覚悟や見識が求められるが、稲田氏はおろも持ち合わせていないようだ。それが野党側に狙われたのだ。ふさわしくないのが大臣になり、ボロが出たと言え。